

三菱の鬼ども

宮城 淳
(東燃ゼネラル石油)



平成16年11月23日の記念すべき第50回大会を前に私は凄く張り切っていた。テニスの調子は上々であったし、キャプテンとして何としても対戦成績を対にしておきたかった。ところが、夏からの世界ベテラン選手権などで疲労が溜まっていた上に一週間前の週末に全日本選手権のスポンサーとのプロアマ親善試合でハードコートで走り回ったら翌朝膝が痛くて歩けなくなった。MRIで検査の結果半月板断裂と診断され試合当日は会場の浜田山までも行かれない羽目になってしまった。最多出場回数の表彰をして頂いたのに誠に申し訳なく残念であった。

この大会が始まった昭和30年は私にとって忘れられない一年である。大学をやっと卒業し4月に社会人の第一歩を踏み出した。大合同が取り沙汰されていた三菱の商社を狙っていたが、米国遠征でお世話になった早稲田の先輩の高洲さんに挨拶に行ったらうちの会社を受けてみなさいと言われゼネラル物産に入社してしまった。入ってから三井系の石油会社だと知った。5月に初めて日本で行われたデ杯東洋ゾーン決勝でフィリピンに勝ち、三井三菱戦に出て直後に渡米した。デ杯インターゾーンで豪州に負けたが全米ダブルスでは加茂公成君と組んで優勝した。

この三井三菱戦がどのようにして始まったかについては長年私の疑問であったがつい最近三井造船の手島宏さんが昭和30年3月15日付けの三友新聞の記事を見付け出してくれた。それによると3月9日正午丸ビル精養軒にて三井側松平会長、川地主将、高橋（一物）、

芦沢（不動産）、三菱側石井小一郎、大淵鉄太郎（三菱地所）、山岸二郎（商事）氏等が集まり協議の結果、4月17日に懇親的意味を強くする目的で第一回の対抗試合を行うことになった。出場予定選手は三井は清水、柏尾、岡本、鳥羽、川地、宮城、加茂、三菱は熊谷、河尻、青木、山岸、石井、藤倉氏など往年のデ杯選手を含むベテランの多くが出場することになる予定となっていた。実際に試合が行われたのは7月10日であり、延期になった理由は同紙には記載がない。

さて三井三菱戦ですが、私の率直な観察の結果は「三菱さんは鬼ばかり！」であります。私のテニス人生で最初に出会った鬼は青木さんである。初めて出たジュニアの試合でシード2人を倒して準決勝まで勝ち上がったが、青木さんには全く歯が立たず0、1で完敗した。次に大学一年の秋の早慶戦で現れた鬼は高橋重彦さん、2セットダウンから2セットオールまで挽回したが、最後はフォアの強打とバックのしつこさで粘り倒された。負けてしょんぼりしていたら部長の安部先生に「宮城君、君は馬鹿だ！ネットプレーを練習しなさい！」と言われた。高橋さんとは一戦して一敗、しかしネットプレーの重要性を教えてくれた高橋さんは私の大恩人で感謝している。

第一回三井三菱戦No.1は、新旧デ杯選手の加茂公成・宮城組対山岸二郎・藤倉五郎組で三井が6-4、6-4で勝ったが、三友新聞の松平評は大接戦でどちらが勝ってもおかしくない内容のようでした。我々ペアーは翌月には全米ダブルスで勝っているのですから山岸さ

ん藤倉さんはまだまだ強くて十分に苛められました。

山岸さんとは昭和28年のデ杯で監督をして頂きアメリカ、カナダを転戦しましたが、Jiro人気は大変で新聞記者も現役の我々の所より山岸さんに集まるので呆れてしまいました。

数年後、会社に突然商事石油部の山岸さんが現れてLow Sulpher重油の商談を持って来られて三菱と三井の間で初めて取引が始まったそうです。

藤倉さんとは昭和26年の全日本の準々決勝で当たって負けましたが、善戦が認められて冬のインドからの招待の選手に選ばれ、初めての海外遠征で大いに腕を上げました。藤倉さんとの試合では弱いと思ったバックばかり攻めて上手くかわされましたが、試合後相手の得意の所を攻めなければ勝てないと貴重な教訓を頂いた。

第一回は三井側の予想では楽勝となっていたようですが、一般ではたった2点しか取れずに大敗でした。三菱のNo.2青木・大野（銀行）、No.3石井（地所）・山岸成一、No.4横山・塚田（銀行）のベテランに三井の若手が捻られてしまったのです。

私は59才の第36回まで一般のNo.1で11人のパートナーと組んで出場しました。最後のほうは勿論捨てポンです。私を負かした鬼どもは沢山おりますが石黒、半那、山岸孝、藤井、武田の諸氏、それから沢、今鷹、関、重光、この辺りはうんと若いから許すとしましよう。ベテランになってからは生川、藤井、半那さん。半那さん、藤井さんには夫々4回も煮え湯を飲まされ正に天敵というべきで顔も見たくない嫌な奴である。

半那さんとは彼が学生の頃2回当たり負ける寸前まで痛めつけられた。関東選手権の準決勝ではセットを取られて2-5でした。ボレーがネットと平行に入るので全くお手上げでしたが、前の晩痛飲されたようでスタミナ切れで辛うじて勝たせて頂いた。また亡くなる前の最後の試合で組んで決勝で負けたのが残

念です。藤井さんには全日本で何回も負けた。あの重いフォアと滑ってくるバックは駄目です。今も時々極めて丁重に巣鴨の養和会のコートに呼び出されてはひどくやっつけられて楽しまれています。そのせいか三菱養和会の評議員に推薦して頂いて三菱グループのVIPの方々とお目に掛かる機会ができて感謝している。

鬼の集団の中にたった一人仏のような方がいらっしゃいます。商事の織田さんは2回戦って2回とも勝ちを譲って頂きました。どうぞこれからも仏のままでいて頂くようお願いします。

世の中には好敵手というのが沢山あって、巨人阪神などは新しい方で早稲田慶応は100年を超えたライバルであり、三井三菱は更にとずっと昔からの関係でしょう。強い競争相手がいるからこそそれを打ち負かそうと研究し努力して進歩があるのです。三菱戦に向けての三井の入れ込みようも相当なもので練習会や作戦会議といろいろ努力しています。対戦成績では二つ負け越していますので先ずは対に持ち込みたいものです。記録によると今までの総試合の勝ち負けは三井の561勝560敗と、これは正に好敵手以外の何者でもないでしょう。

テニスでは鬼ばかりの三菱さんですが、グループとしては仕事の面でも良き競争相手であり、社会人としても個人としても一番信頼できる方ばかりで、今後ともよろしくお付き合い頂くようお願いいたします。



昭和34年 デ杯チーム
宮城、柴田、福田（監督）、松浦、加茂

三井・三菱戦 宮城淳さんとの思い出

藤井 道雄
(三菱電機)

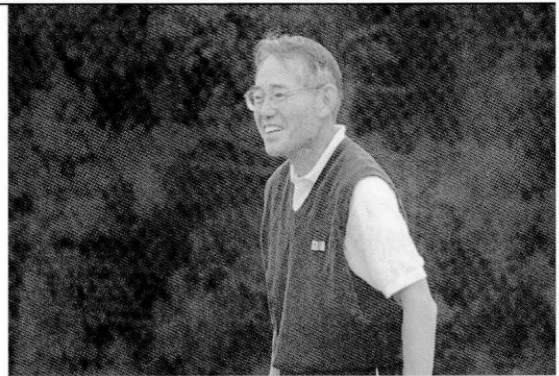
三井・三菱戦、既に50回を超えてしまったとの事、もう半世紀も対抗戦をやってきたかと思うと、感無量であります。

自分はその内、何回出場させて頂いたのか？勝ったのか、負けたのか？個人としては全く記録してはませんが、やはり一番多く対戦させて頂いたのは宮城淳さんではなかったかと思えます。

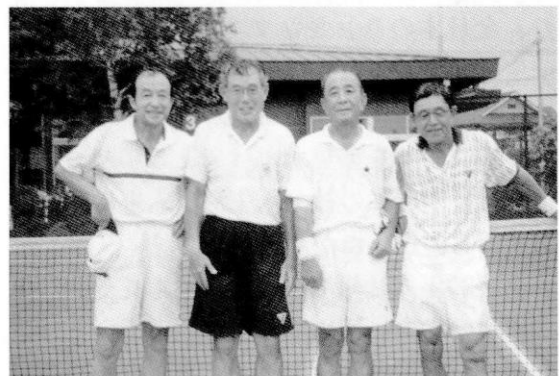
三井側の宮城淳さんと対戦出来るという事で、毎回出場するのが楽しみでありました。そして、対戦成績が均衡しているということ、互いの実力が伯仲していることが相まって、宮城淳さんとの各試合は、気の抜けないものばかりでした。

宮城さんのパートナーは吉井さんであったり、時には松浦さんであったりしましたが、私のパートナーは亡くなられた半那さんが一番多かったと思えます。

宮城淳さんとは学生時代のデ杯選手選考試合の時も、そして三菱電機に入社して暫く現役生活を続けていました時も、数多くやらさせて頂きました。今日、この年になってテニス続ける事が出来ますのも、宮城淳さんのお蔭でありますと深く感謝申し上げる次第です。



宮城淳さんは私より8つも年上の大先輩であり、今年（平成17年）75才になられる訳であります（今年は75才クラスの世界選手権に出場されると伺っております）、そして年下の私が申し上げるのも僭越至極ですが、どうか私の身体が動く限り、宮城さんよろしくお願ひします。



毎日トーナメントにて 平成12年
宮城氏、藤井氏、半那氏、広瀬氏